

## 前進と逆流がせめぎ合う中南米を学ぶ

菊池高波（ナララ事務局）

ナララ第 24 回定期総会では、新藤通弘氏（ラテンアメリカ現代史研究家）をお招きし「中南米の現状－前進と逆流－」という巨視的なテーマで記念講演いただきました。春寒も落ち着き、奈良の桜がいつせいに開花した 3 月 29 日、新藤先生は奈良に到着され、さっそく桜の木の下で記念撮影をされました。以下は私が学んだ概要の報告です。

前世紀より自由と民主主義求める中南米諸国人民のたたかいを、暴力と陰謀と経済制裁で蹂躪してきたアメリカ帝国主義は、トランプ政権下で、その本質的な醜悪さを強めています。

第一次トランプ政権は、各国にある米国大使館に秘密書簡を送り「あらゆる手段を使ってキューバへの資金とモノの流れを断ち、経済を窒息させ、国民の不満を増大させ、賃金を下げ、飢餓と絶望を引き起こし、体制を打倒しなければならない」と指令していました。かつてニカラグアのサンディニスタ政権転覆のために画策した「大兵糧攻め」作戦が、さらに大規模に再現されています。2023 年度の封鎖による累積被害は 50 億ドルで（キューバ人一人につき年間約 500 ドル）。封鎖がなければ GDP は 8% 伸長していただろうと推計されています。

そして、発足した第二次トランプ政権について新藤先生は、「衰退しつつあるアメリカ帝国主義の再編・強化こそがその本質ではないか。『アメリカ帝国主義の落日のはじまり』というが、ことはそう簡単な話ではない」と指摘しました。稚拙極まりない手法で、国際政治ルールを破り捨てている。メキシコ湾をアメリカ湾と書き換え、パナマ運河の管理権奪還を絶叫。キューバ系アメリカ人マルコ・ルビオ（狂信的な反共主義者）が国務長官に就任。「ベネズエラの石油・ガス輸入国に対し、25%の関税を課す」など、国際貿易ルールを土足で踏みこむ「制裁関税」発動を恫喝しました。

さらには「不法」移民の強制送還を強行。戦時下の法律だった「敵性外国人法」を適用し、200 人超のベネズエラ人をエルサルバドルに追放。エルサルバドルの独裁者、ブケレ大統領は送還者を C E C O T（悪名高い「テロリスト監禁センター」）に収容すると申し出るなど、人権意識のかけらもありません。ルビオ国務長官はベネズエラ、キューバ、ハ

イチ、ニカラグアからの「不法」移民 50 万人の滞在資格を取り消し、あらゆるキューバ人の入国及び在米キューバ人の里帰りを禁じる（里帰りキューバ人の持ち込み金 30 億ドル）方針を打ち出し、経済的にキューバの息の根を止める作戦にでています。これにたいしアメリカへの批判も高まり、昨年 10 月 30 日の第 79 回国連総会では「米国のキューバへの経済封鎖を終結させる」決議が賛成 187 カ国の圧倒的多数で採択されています。

新藤先生は 2025 年 4 月における中南米・カリブ海政治地図を分類し（下表）、「自主的立場の国は 24 カ国 73%。2008 年比較で 9 カ国増えた」と評価されました。さらに中南米主要諸国の情勢を縦横無尽に語られ、その豊富な資料と詳細な展開、冷静で精確な分析は、本講演のテーマを俯瞰する巨大な世界地図を見せられる思いでした。

①新自由主義経済政策(階級支配)と②それを押付けた米国(民族支配)から自立した政策

左翼政権	①を厳しく批判し、 ②がはっきりとしている	4 カ国	キューバ、ベネズエラ、ボリビア、ニカラグア
左派、中道 左派政権	①を批判し、 ②がはっきりとしている	7 カ国	ドミニカ国、メキシコ、ホンジュラス、チリ、ブラジル、コロンビア、エクアドル
中道政権	①を批判しないが、 ②の自主的立場を堅持している	13 カ国	スリナム、ハイチ、バルバドス、ドミニカ共和国、グアテマラ、グレナダ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネイビス、セントビンセント・グラナディーン諸島、アンティグア・バーブーダ、パナマ、セント・ルシア、トニリダード・トバゴ
対米従属政権	①も②ももっていない	9 カ国	アルゼンチン、コスタリカ、エルサルバドル、ガイアナ、バハマ国、ベリーズ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ

新藤先生は講演の最後に、メキシコのクラウディア・シェインバウム大統領（2024 年 10 月就任）について言及、「沈着、冷静な科学者。『過去の新自由主義的経済政策が国内の貧富の格差を拡大させてきた。女性が恐怖を感じることはない、暴力のない生活を実現する』と表明し、トランプと対等に渡り合っている」と紹介されました。中南米では、今

世紀に入り7人の女性国家元首が出現、「ほとんどが中道ないし中道左派、興味深いところ」と指摘されました。女性政治家の大活躍でこそ、平和と民主主義が前進することの証明です。

新藤先生は、さらに一時間近くに及ぶ質疑応答にも実に丁寧に答えてくださいました。アメリカの激しい干渉に抗い、着実に前進する中南米諸国人民のたたかいに心揺さぶられ、励まされた半日でした。東京から日帰りの強行軍のなか、始終笑顔を絶やさずご講演くださり、本当にありがとうございました。（了）